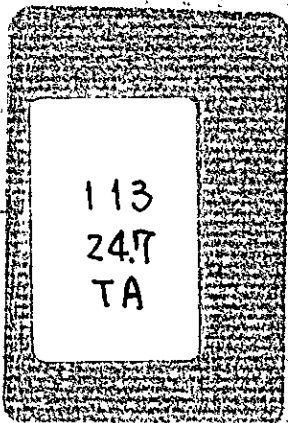


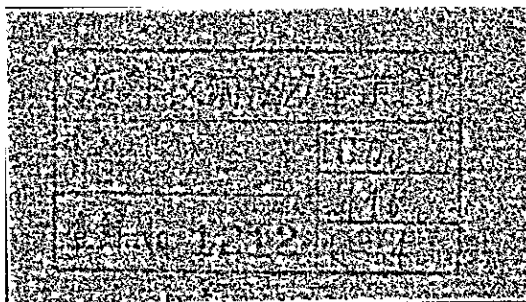
No. 42  
0年11月

昭和39年度  
帰国研修員実態調査報告書

(マレーシア, フィリピン, 台湾)



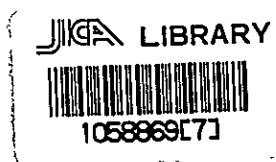
海外技術協力事業団  
Overseas Technical Cooperation Agency



## は し が き

昭和 39 年度の帰国研修員実態調査は、マレーシア（マラヤ、シンガポール、サラワク、サバ）、フィリピン及び台湾の 3 カ国 6 地域を選んで実施することとし、職員 2 名（国内事業部管理課遠藤英夫及び同研修第一課岡部薫）を派遣して調査に当たらしめた。

これは、その調査報告である。



総務部 調査統計課

國際協力事業団	
受入 月日 '84. 5. 22	113
登録No. 06494	24.7
	TA

## 目 次

### はしがき

1. 調 査 対 象	1
2. 調 査 方 法	1
3. 調 査 率	1
4. 帰国研修員の協力	2
5. 在外公館の協力	2
6. 調査結果の概括	2
7. 実態調査表の分析	3
〔質問7〕 帰国後地位の昇進があつたか	4
〔質問8〕 現職と日本で受けた研修の関連	5
〔質問9〕 日本で習得した知識・経験を利用する可能性	5
〔質問10〕 技術研修についての意見	6
(a) 指導官について	6
(b) 研修施設について	6
(c) OTCA 又は関係省によるアレンジメントについて	7
(d) 宿舎について	7
(e) 通訳について	8
(f) 研修に関する意見	8
〔質問11〕 一般的印象	9
(a) 滞日中に出会つた不便について	9
(b) 帰国研修員の集い(同窓会)について	9
(c) その他	9

### 1. 調 査 対 象

今回の調査は、事業団の設立等の事情を考慮して、1962年4月から1964年9月までの間に、日本政府の技術協力計画（コロンボ計画、北東アジア計画、及び原子力計画）によつて来日し、研修を受けて帰国した研修員にその範囲を限定し、且つ、クアラルンプル、シンガポール、クチン、ジェセルトン、マニラ及び台北またはその近郊に勤務または在住する者227名を対象とした。

### 2. 調 査 方 法

関係地域に駐在する我国公館の協力を得て会議を開催し、席上質問を行ない、同時に用意の調査表（QUESTIONNAIRE）—調査表は昭和37・38年度と同一形式—の質問事項に記入させる方法を主体とし、補足的に勤務先を訪問して、上司の意見を聴取し、また一部当該政府技術協力担当官の意見をも聴取した。

なお面接できなかつた帰国研修員には、大使館等を通じて調査表を送付し、返送を受けることとした。

### 3. 調 査 率

（調査場所）	（調査対象）	会議等面接による調査人数	（調査表回収数）
クアラルンプル	33人	10人(30.3%)	17(51.5%)
シンガポール	38	28(73.7%)	26(68.4%)
クチン	9	7(77.8%)	3(33.3%)
ジェセルトン	10	8(80.0%)	4(40.0%)
マニラ	106	64(60.4%)	40(37.7%)
台北	31	16(51.6%)	30(96.8%)
計	227	133(58.6%)	120(52.4%)

（注）面接調査人数と調査表回収数が一致しないのは、調査表の後送を約した帰国研修員が、何らかの事情のため返送して来なかつたためである。

#### 4. 帰国研修員の協力

クチンを除く他の調査場所では、会議出席者は、すべて勤務を休んで出席するという協力ぶりであり、なかには奥地から飛行機を使つて出席した者（クチン、ジェセルトン）、上司を同伴した者（クアラランブル）、会議に出席できないため代理人を差向けた者（台北）もいた。

（会議欠席者の相当部分は、帰国後の転勤による住所変更及び住所記録の不備のため連絡がとれなかつた者である。）

#### 5. 在外公館の協力

今回の調査にたいする在外公館の関心も相当に強く、多大の援助と協力を惜しまれなかつた。帰国研修員への連絡、会議のアレンジ、会議への出席はもとより、調査表を複製し、事前に送付したり（クアラランブル）、会議後レセプションを開く（シンガポール）等の労をとられた。調査結果にたいする関心も強く、調査表を読みたいとの希望によつて、後日の郵送を約して置き帰つたところもあつた（マニラ、台北）。

#### 6. 調査結果の概括

各地で概して共通的に述べられた問題点の主なものを挙げると次のとおりである。

##### (1) 日本で習得した技術を帰国後応用する場合の問題点。

- イ 機材、設備が十分でないため、折角の技術が活用できない。
- ロ 問題解決のための参考資料、情報が不十分であり、指導を受ける者もない。
- ハ 従つて技術の向上が図れず、停滞のおそれがある。

##### (2) 日本で受けた研修についての帰国後の所感

- イ 集団研修コースは内容が一般的、網羅的でありすぎる。コースの中を細分化し、参加研修員の希望に応じて specified subject 研修の時間をふやすべきである。
- ロ 水準の異なる各国からの参加者のすべてに満足を与えることは困難であるから、個別受入れの枠を拡げるべきである。
- ハ 研修監理員、通訳の専門知識が貧困である。この状態が改善されないならば、日本語研修を徹底させるか、講師（指導官）の英語力を改

善する方法を考えるべきである。

ニ 英文資料が不十分であつた。

ホ 研修期間は一般に短かすぎる。

ヘ 特に機械操作等の実習期間は各コースを通じて短かすぎる。全体の期間が延長できないならば、講義時間を短縮し実習期間の延長をはかられたい。

(3) 宿舎、滞在費等について

イ 事業発足後、特に中央研修センター開館後の研修員からは、宿舎についての不満は殆んど聞かれなかつた。

ロ 滞在費に言及した者も少数であつた。

ハ 事業団担当者の誠意と努力には、ほとんどすべての者が謝意を表明した。

ニ 研修終了証書については、より詳細で beneficial な証書の発行を希望する者が多かつた。

(4) 帰国研修員の同窓会(クラブ)結成について

各地に於て、かかる組織の誕生を歓迎する声が圧倒的であつたが、その組織化については日本側(OTCA 又は在外公館)からの働きかけが現実的であり有効であろうとの意見であつて、帰国研修員の中からという動きは弱かつた。

(5) その他の問題

イ 日本語研修の必要性を強調する者が相当数見られた。

ロ 帰国後も OTCA からの連絡(定期刊行物の送付等)を希望する者が大多数を占めていた。

7. 実態調査表の分析

回収した実態調査表の分析は次のとおりである。(質問1~6は氏名、住所、現職等についての質問であるので、省略する。)



〔質問7〕 帰国後地位の昇進があつたか

	理 由	マラヤ	シンガ ポール	サラワク	サバ	フィリ ピン	台 湾	計
昇進した		3	4	2	3	18	7	37
	イ 昇進の時期が来たため		1			4	2	7
	ロ 組織拡張のため		1					1
	ハ 理由記入なし	3	2	2	3	14	5	29
昇進しない		13	22	1	1	22	21	80
	イ 昇進の時期が来ない	2	2		1		6	11
	ロ 上位に空席がない	3	2			5	1	11
	ハ 当該部門の最高位にいるため		1				1	2
	ニ 昇進の道が開けていない		1					1
	ホ 条件が充たされていない(論文提出等)					1	1	2
	ヘ 理由は知らない					4	1	5
	ト 理由記入なし	8	16	1		12	11	48
回答なし		1					2	3

- (注) 1. 「昇進しない」と回答した者の中で、23名は「政府は昇進と研修を結びつけて考えていない」「自分も研修を昇進に結びつけて期待していない」と答え、その中の2名は、「研修が昇進に結びつくためには、Degree または Diploma を取得して帰ることが必要である」と説明している。(マラヤ、サラワク)
2. また「昇進した」と回答した者の中でも2名は「研修とは関係なく」と付記している。
3. 「昇進しない」と答えた者の中で、「昇進はしないが、より重い責任を負わされることになった」と答えた者が4名いる。(シンガポール1、フィリピン2、台湾1)

〔質問 8〕 現職と日本で受けた研修の関連

	程 度 ・ 理 由	マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
関連あり		16	26	3	4	37	30	116
	イ 大いに関連あり	10	13	1	3	28	24	79
	ロ 部分的に(若干)関連あり	2	4	2		1	2	11
	ハ 記入なし	4	9		1	8	4	26
関連なし		1				2		3
	イ 勤務先(試験所)の計画で助くため	1						※ 1
	ロ 理由記入なし					2		2
回答なし						1		1

- (注) 1. ※研修は稲作実習、現職は土壌科学  
 2. 「関連あり」と答えた者の中で、「日本の技術者(派遣専門家)と協働している」と答えた者が4名(シンガポール TV関係3名、台湾 石油探鉱1名)  
 3. 「部分的にしか関連がない」または「若干関連あり」と答えた者の内訳は次のとおり。  
 (1)国際電信業務の研修を受けたが、現職は内国電信担当であるため(マラヤ)、  
 (2)TV番組の研修を受けたが、現在はラジオ番組担当である(マラヤ)、(3)測量・地図作成の研修を受けたが、測量部門には関係していない(シンガポール)、(4)港湾セミナーに参加したが、自国の港が未完成であるため(サラワク)

〔質問 9〕 日本で習得した知識・経験を利用する可能性

	マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
可能性あり	13	23	3	1	32	26	98
条件付可能	2	3		2	5	2	14
可能性なし				1		2	3
回答なし	2				3		5

- (注) 1. 〔質問 8〕で、現職と日本で受けた研修との関連は、「部分的(若干)しかない」または「関連なし」と答えた者も、将来の可能性については、「可能性あり」または「条件付では可能」と答えている。  
 2. 「条件付で可能」と答えた者のいう条件の主なものは、(1)機械・設備が日本なみになれば(フィリピン 職業訓練、水産加工、手工芸)、(2)資金があれば(フィリピン 橋梁工学)、(3)時間を籍せば(フィリピン 橋梁工学)、(4)担当職務が変われば(マラヤ 稲作実習)等であり、またこの中には「部分的に可能」(台湾 家畜衛生2名)も含まれる。  
 更に、日本と自国とのレベルの格差が大きいと、今直ちには無理であるが、将来活用したいし、また活用できるよう努力するという「希望」の意味を含めている者(サバ 農業協同組合)もいる。  
 3. 「可能性なし」と回答した者の内訳は(1)研修が短期・高度であつたため活用しうるほどには吸収できなかった者(サバ 農業協同組合)、(2)既に知っている以上のものを得られなかつた者(台湾 郵便業務、会計制度)である。

〔質問10〕 技術研修についての意見

(a) 指導官について

		マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
立派・優秀		15	26	3	4	37	23	108
	イ 大変立派で優秀	9	14	3	3	17	13	59
	ロ 良かったが英語能力不十分	4	7		1	14		26
	ハ 特に説明なし	2	5			6	10	23
回答なし		2				3	7	12

(注) 指導官の優秀性については大部分の者が敬意を払い、その懇切な指導にたいして感謝の意を表明しているが、「語学力が不十分である」と指摘した者は、そのために「質問を歓迎されなかつた」、「質問にたいする答えが的はずれであつた」等の点で不満であつたことを告白している。

(b) 研修施設について

		マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
満 足		12	26	3	4	36	19	100
	イ 大変満足	8	16	2	4	22	8	60
	ロ 概して満足	2	6			10	2	20
	ハ 特に説明なし	2	4	1		4	9	20
一部不満		3				2	1	6
回答なし		2				2	10	14

(注) 「一部不満」と答えた者は、(1)実験・実習機材の不十分(マラヤ 農業)、(2)研修室の状態(マラヤ 農業)、(3)工場実習・見学の禁止部分(台湾 繊維)を指摘している。

[c] O T C A 又は関係省によるアレンジメントについて

		マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
満 足		14	25	3	4	39	26	111
	イ 大変満足	13	23	3	4	31	20	94
	ロ 概して満足	1	2			6	1	10
	ハ 特に説明なし					2	5	7
一部不満足		1	1				1	3
回答なし		2				1	3	6

(注) 「一部不満足」の中には、(1)希望しないコースであつたため、変更を申出たが認められなかつた(シンガポール 職業訓練)、(2)研修期間が冗長にすぎた(マラヤ 職訓セミナー)、(3)見学のアレンジがスムーズでなかつた(台湾 家畜衛生)が含まれる。

[d] 宿舍について

		マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
満 足		15	25	3	4	37	20	104
	イ 大変満足	12	22	2	2	29	11	78
	ロ 概して満足		1	1	1	6	1	9
	ハ 特に説明なし	3	2		2	2	8	17
不 満 足		1	1			3	6	11
回答なし		1					4	5

(注) 「不満足」と答えた者は、(1)滞在費に比して宿泊料が高すぎる(マラヤ、フィリピン、台湾)、(2)研修場所へ遠すぎる(シンガポール 職訓)、(3)下宿を認められなかつた(台湾)ことを理由として挙げている。

(e) 通訳について

		マラヤ	シンガ ポール	サラワク	サバ	フィリ ピン	台湾	計
満 足		11	18	3	4	21	4	61
	イ 大変よかつた	7	13	1	3	14	1	39
	ロ 良かつた	4	5	2	1	7	3	22
不 満 足		6	6			13	1	26
	イ 技術的専門知識が不十分	2	3			8		13
	ロ 技術用語が不十分	4	3			5	1	13
通訳 なし			2			6	25	33

(f) 研修に関する意見

	マラヤ	シンガ ポール	サラワク	サバ	フィリ ピン	台湾	計
1. 満足すべきものである。	6	10	1		17	14	48
2. 期間が短かすぎる。	3	4	2	1	8	4	22
3. 期間が長すぎる。	1				1		2
4. プログラムが広範すぎる。	1	2		1	4	2	10
5. 研修コースの中で専門別に細分化するのがよい。	2	6		1	5	3	17
6. 個別研修がよい。	2	4	2	2	5	6	21
7. 実習・実験の時間を多くするのがよい。	4	2	1	1	3	2	13
8. 英文のテキスト等教材が少ない。	3	5	2	2	11	1	24

(注) 回答数合計が人員を上回っているのは、1名で複数の項目を回答した者がいるためである。

〔質問11〕 一般的印象

(a) 滞日中に出会った不便について

		マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
なし		8	11	1	3	19	29	71
小さい不便		9	15	2	2	18	1	47
	イ 言葉	4	7		1	14		26
	ロ 食事	1	2	1		1		5
	ハ 気候	4	5	1	1	2	1	14
	ニ 生活様式		1			1		2
大きい不便		1	1	1		3		6
	イ 言葉	1	1	1		1		4
	ロ 食事					2		2
回答なし		2	1			2		5

(注) 回答数合計が人員を上回るのは、1名で複数の項目を回答した者がいるためである。

(b) 帰国研修員の集い(同窓会)について

		マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
積極的賛成		15	22	3	4	36	29	109
賛成		2	4			4	1	11
	イ 困難とは思いますが	1	1			2		4
	ロ 大使館が作れば加入する	1	3			1	1	6
	ハ 少数しか加入しないと思うが					1		1

(c) その他

		マラヤ	シンガポール	サラワク	サバ	フィリピン	台湾	計
1.	日本に於ける研修に感謝している。	5	9			17	6	37
2.	OTCAその他の情報を得たい。	1		3		14	5	23
3.	技術情報を知りたい。		2	3	2	8	9	24
4.	図書に寄贈を受けたい。		3	2	1	2	4	12
5.	機材供与を希望する。	3		2	2	7	1	15
6.	より多くの研修員の受入れを希望する。			3	3	1		7

